

JICA 海外協力隊の予防接種について

2023年5月
青年海外協力隊事務局

国際協力機構（JICA）は、途上国に派遣される関係者に対して、日本では流行していないような感染症から自分自身の身を守り、さらに周囲への感染を予防するため、予防接種を強く勧奨しています。

海外派遣に伴う予防接種は、日本国内で法律に基づき勧奨される「定期接種」とは異なり、派遣国の事情、滞在期間、年齢、健康状態等を考慮して、自らの意思で接種するかどうか決定していただく必要があります。

健康管理は、あくまでも自己管理が基本であり、派遣後は日常生活における感染症予防対策を徹底するようお願いいたしますが、このためにも予防接種についてご検討をお願いいたします。

入国時や査証取得時に相手国から予防接種証明書（イエローカード）の提示が求められる黄熱病予防接種等については、接種が必要な方には派遣に支障がないよう派遣前訓練（長期派遣者向け）開始前に接種を済ませていただきますが、A型肝炎、B型肝炎、破傷風、狂犬病、日本脳炎、ポリオ、髄膜炎菌性髄膜炎等については、長期派遣者向け訓練に参加される方については派遣国に応じて訓練所で集団接種する機会を設けています。「訓練中に接種するワクチン説明」を事前にご確認頂きますようお願いいたします。（訓練所入所前に、個別で接種が必要な方に対して、ご連絡させて頂く場合があります。また、派遣後、任国の流行状況に応じて予防接種を勧奨する場合があります。）

ただし、訓練所で接種を実施しない予防接種および短期派遣者、語学訓練免除者の予防接種については、出発まで（場合によっては訓練入所まで）にご自身で準備して頂く必要があります。

原則として、「予防接種のご案内」

（<https://www.jica.go.jp/volunteer/qualifier/document/04-3-13.pdf>）に準じて予防接種料補助額をお支払いいたします。交通費の支給はございませんのでご注意ください（黄熱病予防接種については対象者に別途連絡します）。本申請については、合格後から派遣中に接種したものが、補助対象となりますが、合格後～訓練開始までにご自身で手配し接種をお願いいたします。接種後、申請には期限がありますので、期限内の提出が必要となります。ご注意ください。

JICAは、原則として予防接種を終えた方をJICA海外協力隊として派遣します。アレルギー等の体質上の理由から予防接種が困難な方は、個別に相談させていただきますので、必ず既往症としてその旨を申告いただくようお願いいたします。

以上

訓練中に接種するワクチン説明

二本松訓練所・駒ヶ根訓練所

破傷風	
流行地	全世界に分布
感染経路	土壌の中に存在する破傷風菌が傷口から侵入し発症する。
症状	筋肉のこわばり、痙攣、呼吸困難などが見られる。
ワクチン	日本では定期接種。成人の場合、定期接種が完了していても抗体価を高める為の追加接種が推奨される。 副反応：発疹、はれ、しこり、発熱、悪寒、頭痛、倦怠感などが一過性で2～3日中に消失する。まれにアナフィラキシーなどを起こす事もある。

A型肝炎	
流行地	衛生状態、下水道が整備されていない地域
感染経路	経口感染 性行為感染
症状	高熱、全身倦怠感、下痢、黄疸の症状があらわれ完全に治癒するまでには1～2か月の治療を要し、まれに劇症肝炎、急性腎不全を引き起こす。
ワクチン	基礎免疫をつけるには一定の間隔で3回（輸入ワクチンでは2回）の接種が必要。 副反応：疼痛、発赤、はれ、しこり、痛み、発熱、倦怠感、頭痛、下痢、全身筋肉痛などが出現する事もある。まれにアナフィラキシーなどを起こす事もある。

B型肝炎	
流行地	全世界に分布
感染経路	血液・体液感染 性行為感染
症状	倦怠感、食欲不振、黄疸などの一過性の肝炎症状が発現する。一部劇症肝炎となり激しい症状から死に至る事もある。症状の出現はないもののウイルスが肝臓の中に潜み、慢性肝炎・肝硬変・肝がんになる事もある。
ワクチン	基礎免疫をつけるには、一定の間隔で3回の接種が必要。日本では、2016年より定期接種。 副反応：痛み、はれ、しこりなどがある。過敏症として、発熱、発疹、関節/筋肉痛、頭痛、めまいなどが現れる事がある。まれにアナフィラキシー、ギラン・バレー症候群が起こる可能性もある。 酵母アレルギーがある方は医師と要相談

狂犬病	
流行地	日本、ニュージーランドなど一部の地域を除いた全世界に分布
感染経路	狂犬病ウイルスに感染している哺乳類（イヌ、ネコ、キツネ、こうもりなど）に噛まれたり、傷口をなめられたりして感染する。
症状	頭痛・発熱などから始まり嚥下困難、痙攣、呼吸不全がみられ発病すると100%死亡する。
ワクチン	予防的接種（3回）および狂犬病常状国で動物に噛まれたり、傷口をなめられたりした場合はに発病予防的接種（2回～6回）で発病は抑えられる。 予防的接種が完了していても動物咬傷が発生したら発病予防的接種が必要である。 副反応：痛み、はれ、頭痛、倦怠感、発熱が出現する事もある。まれに重大な副反応としてアナフィラキシー、脳炎、ギラン・バレー症候群が起こる可能性がある。 ゼラチン、鶏卵、鶏肉、抗生物質（テトラサイクリン、ネオマイシン、アムホテリシンB）に対してアレルギーを疑う方は医師と要相談

日本脳炎	
流行地	東アジア、南アジア、東南アジア
感染経路	日本脳炎ウイルスを保有した豚から蚊を媒介して刺されることで発症
症状	突然の高熱、頭痛などで発病し重篤な急性脳炎を起こす。後遺症を残したり、死に至る事もある。
ワクチン	日本では定期接種（4回）成人の場合、定期接種が完了していても追加接種をする事により抗体価が上昇する。 副反応：発疹、咳、嘔吐、倦怠感、痛み、はれが出現する事もあるが数日で消失。まれにアナフィラキシー、急性散在性脳髄膜炎、脳炎などがみられる。

ポリオ（急性灰白髄炎）	
流行地	アフガニスタン、パキスタンでは野生株のポリオの流行が見られる。その他地域でもワクチン由来のポリオ発生が報告され地域的な流行が見散される。
感染経路	経口感染
症状	無症状、または発熱、頭痛、咽頭痛などの風邪のような症状で終わる場合もあるが、髄膜炎症状を発症すると後遺症を残す。
ワクチン 不活化ワクチン	日本では定期予防接種（2012年までは生ワクチン（2回）、2013年以降は、不活化ワクチン（4回））。 副反応：はれ、発赤、発熱などが見られる事もあるが数日で消失。まれにアナフィラキシーを起こす事もある。 ポリペプチド系、アミノグリコシド系の抗生物質にアレルギーがある方は医師に要相談

髄膜炎菌髄膜炎（侵襲性髄膜炎菌感染症）	
流行地	アフリカのサハラ砂漠の南側、髄膜炎ベルト地帯（大西洋からインド洋に至る地域）、西アジア
感染経路	飛沫感染。飲み物の回し飲み等濃厚な接触があった場合には感染のリスクは高い。
症状	高熱、皮膚/粘膜に出血斑、感染炎等の症状が現れ、髄膜炎に発展する。髄膜炎を起こした場合は、治療を行わないと致死率はほぼ100%。
ワクチン 4価髄膜炎菌	髄膜炎菌の血清として分類される12種類にうちの4種類（A, B, C, W-135）による髄膜炎感染症を予防。 副反応：はれ、発赤、発熱などが見られることもあるが数日で消失。海外では重い副反応としてアナフィラキシー、脳髄膜炎、ギラン・バレー症候群の報告がある。

感染症、ワクチンの詳細については下記の参考サイトで確認が出来ます。

参考： 厚生労働省 [感染症情報 | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](https://www.mhlw.go.jp)
 Forth（厚生労働省検疫所） [FORTH | 海外渡航のためのワクチン](https://www.forth.go.jp)
 国立感染症研究所 [疾患名で探す \(niid.go.jp\)](https://www.niid.go.jp)
 各ワクチン添付文書

医薬品副作用被害救済制度

医薬品副作用被害救済制度は、認証を受けた医薬品を適正に使用したにもかかわらず健康被害が生じた場合に、治療費などの救済給付を受けられる場合があります。

詳しくは、独立行政法人 医薬品医療器械総合機構のホームページを参照してください。

[医薬品副作用被害救済制度に関する業務 | 独立行政法人 医薬品医療器械総合機構 \(pmda.go.jp\)](https://www.pmda.go.jp)